

**実施概要**

**(1) 大田市みらい会議開催の目的**

第3次総合計画策定にあたり、市民ニーズの把握及び市民が自分たちの将来を考え、市政に参画する共創の機会として、また、行政と市民が協働で計画づくりを進める手法の一つとして大田市みらい会議を開催した。

ワークショップでは、誰もが幸せに暮らし続けるためのまちの環境、行政・市民の在り方等の地域課題の検討と、大田市の良いところ・優れているところを改めて認識し、大田市に対する誇りを実感していただくシビックプライドの形成をテーマとし、それらを踏まえて、未来の大田市のキャッチフレーズを作成してもらった。

**(2) グループセッションの内容**

**テーマ1 幸せに暮らせるまちづくり**

- ①10年後、市民が幸せに暮らせるまちとはどのようなまちか考える。
- ②幸せに暮らせるまちを実現するために必要な取組や施策を考える。
- ③幸せに暮らせるまちをつくるために、特に重要な分野を3つ設定する。

**テーマ2 わたしたちのまちの誇り**

- ①市外から来た人に紹介したい大田市のものや自慢できること、誇りに思うことを考える。
- ②10年後にも引き継ぎたい大田市の良いところ・誇りとこれから育てていきたい大田市の良いところ・誇りを考える。
- ③特に大事にしたい大田市の誇りを3つ設定する。

**テーマ3 未来の大田市のキャッチフレーズの作成**

- ①幸せに暮らせるまちをつくるために重要な3つの分野、特に大事にしたい大田市の3つの誇りを踏まえ、未来の大田市をあらわすキャッチフレーズを作成する。

**(3) 開催概要**

午前の部	開催日時：令和7年11月1日（土）9:30～12:00	
	場所：湯里まちづくりセンター	参加者：11名
午後の部	開催日時：令和7年11月1日（土）14:00～16:30	
	場所：長久まちづくりセンター	参加者：8名

**(4) 結果の概要**

**■未来の大田市のキャッチフレーズ**

- ・大田市がひとつのチームに
- ・地域資源を活用し、景色・文化を守り繋いでいく大田
- ・みんなが大田マニアになるまち
- ・なつかしくて新しいまち“おおだ”
- ・人をつなぐ、未来をつなぐ、ほどよい田舎 おおだ

**■幸せにくらせるまちにするために必要なこと（1グループ3項目を提示）**

- |          |          |
|----------|----------|
| ・子育て     | ・地域資源    |
| ・子育て     | ・地域資源    |
| ・安心な暮らし  | ・地域のつながり |
| ・生活交通    | ・地元愛     |
| ・住民満足    | ・チャレンジ   |
| ・産業・文化   | ・人づくり    |
| ・経済・民間活力 | ・まちづくり   |
| ・人口増加    |          |

**■わたしたちのまちの誇り（1グループ3項目を提示）**

- |           |          |
|-----------|----------|
| ・自然・景観    | ・食文化     |
| ・山・海      | ・食文化     |
| ・生活に根付く景色 | ・程よい田舎   |
| ・歴史文化     | ・暮らしとの両立 |
| ・歴史・伝統文化  | ・大田マニア   |
| ・伝統芸能     | ・親近感     |
| ・文化       | ・人との関わり  |
| ・石見神楽     |          |



# 午前の部 湯里まちづくりセンター

開催日時	令和7年11月1日 9:30-12:00
参加者数	11名

未来の大田市のキャッチフレーズ **大田市がひとつのチームに** グループ①

幸せに暮らせるまち するために必要なこと	わたしたちのまちの誇り
<b>子育て</b> 楽しく不安のない子育て環境 ・将来の大田市をつくる子育て世代や子どもたちを大事にする。地元への愛着を育てる。	<b>自然・景観</b> あたりまえを誇りに ・地元民にとってはあたりまえ、市外の人にとってすごいものを拾い上げて大事にしておく。
<b>地元愛</b> 地域とのかかわりを深く ・地域を知って地元の文化を大事にする。住民を身近に感じることで、地域で暮らしたくなる。	<b>暮らしとの両立</b> おだやかさと賑わいの両立 ・大森の住民憲章、ほどよさ。住む人も外から来る人にも過ごしやすいことが大田市らしさ
<b>チャレンジ</b> とにかくチャレンジ ・チャレンジしたい気持ちがある、チャレンジを実現できるまち	<b>歴史文化</b> ローカルな歴史文化を守る ・人と資源の密なつながりを大事にする。文化をパワーアップさせて残していく。

未来の大田市のキャッチフレーズ **みんなが大田マニアになるまち** グループ②

幸せに暮らせるまち するために必要なこと	わたしたちのまちの誇り
<b>“シビックプライドのあるまち”</b> ～地域の産業・文化を守り育てる これにより、人が集まりだれでも活躍できる～	文化を使っていかに人を惹きつけるか ～主体性のある人に人は集まる～
<b>人づくり</b> ・子ども若者 子育てしやすい	<b>文化</b> ・大森・温泉津・三瓶・仁摩
<b>安心な暮らし</b> ・生活の移動手段、買い物	<b>大田マニア</b> ・大田が好きで愛着があって主体的に活躍できるプレイヤーやフォロワーの活躍
<b>産業・文化</b> ・地場産業の継承・振興	<b>山・海</b> ・いつでも釣りができる自然が近い環境

未来の大田市のキャッチフレーズ **地域資源を活用し、景色・文化を守り繋いでいく大田** グループ③

幸せに暮らせるまち するために必要なこと	わたしたちのまちの誇り
<b>人口増加</b> ・Uターン者の意見を聞き、人口増加を図ることで、付随する雇用、インフラも発展していく。	<b>生活に根付く景色</b> ・昔からある、生活の一部になっている景色を継続して守っていき、新たな誇りに育てていく。(ホタル、桜、銀杏、夕日)
<b>子育て</b> ・安心して出産、子育て出来る支援を行い、子育て世帯の不安を解消し、定住が促進する。	<b>歴史・伝統文化</b> ・地元の伝統的な祭や伝統行事、町並みを守り後世につないでいく。(祭、銀山、神楽)
<b>地域資源</b> ・地元産の物を地元で消費、活用することで地域の中で経済が循環し発展していく。	<b>食文化</b> ・地元の食材を活用した食文化をさらに発展させ新たな誇りとしていく。(酒、魚、そば、米)

【参加者の声(会場アンケートより)】

- グループにIターンの方がおられました、大森のことを大好きで、応援してくれているので嬉しかったです。みんなが大田マニアになるといいなと思います。
- 話し合ってみて、日ごろ見落としていた大田の良いところ、たくさんあるんだなと感じました。こういった機会を今後も継続していただき、地元について考え直す場になればと思います。
- このような会に参加してくださる方が増えて、みんなで一緒に考えると良い大田市になれそうです。
- 大田市も外から来る人が「ありがとう」と思うまちづくりをすると良いのにな、と思いました。
- 他グループの内容もやはり同じことを考えていると感じました。ただ取組・手法はいろいろやり方はあると思います
- 住民目線と行政目線、それぞれの視点が大切。

など



# 午後の部 長久まちづくりセンター

開催日時	令和 7 年 11 月 1 日 14:00-16:30
参加者数	8 名

未来の大田市のキャッチフレーズ **なつかしくて新しいまち“おおだ”** グループ①

幸せに暮らせるまち するために必要なこと	わたしたちのまちの誇り
<b>経済・民間活力</b> <b>安定した仕事がある</b> ・子育て、人口を増やすためにはお金を稼いで暮らしていけることが重要	<b>石見神楽</b> <b>市内外への情報発信</b> ・大田市ならではの独自資源として伝承していくべきもの。
<b>まちづくり</b> <b>充実した地域インフラ</b> ・住んでもらえるための地域の住環境が充実させることが必要。	<b>程よい田舎</b> <b>住んでびっくり、来てびっくり</b> ・海などの自然景観、犯罪が少ないなどちょうど良い住みやすさ。
<b>住民満足</b> <b>楽しくも落ち着いた暮らし</b> ・治安の良さ、まちの文化、市政のあり方など、住民が安全・安心して暮らせることが重要。	<b>親近感</b> <b>良い意味で距離が近い</b> ・ご近所にあいさつをするなど、都会にはない人付き合い。

未来の大田市のキャッチフレーズ **人をつなぐ、未来をつなぐ、ほどよい田舎 おおだ** グループ②

幸せに暮らせるまち するために必要なこと	わたしたちのまちの誇り
<b>地域のつながり</b> ・住民同士が挨拶しあい、日常的に野菜等の授受がある、人を受け入れてくれる地域。	<b>人との関わり</b> ・地域に根づく人柄・文化を 10 年後も継続していく。
<b>地域資源</b> ・豊富な水産物、豊かな自然、歴史的文化遺産を活かしたまち。	<b>食文化</b> ・三瓶そば、大あなご、アスパラガスなど地域の生産物・食材のブランド化を進める。
<b>生活交通</b> ・あらゆる世代があらゆる用途で移動する際に困らない、移動しやすく人の流れを作り出す。	<b>伝統芸能</b> ・伝統や芸能を続けるために後世に伝え、練習や地域交流を行っていく。

【参加者の声(会場アンケートより)】

- 10 年後の大田市について考えてみると、人口減少等厳しい状況をいかに改善するかなどの課題がある。その中で、将来を見据えると、理想を持つことは重要とも考える。
- 大田市にずっと住んでいると、実は良いもの(風景・食材等)に慣れてしまい、感動する気持ちが低くなってしまっている。I ターンされた方の「大田市のいいね！ポイント」をたくさん聞き、我々が発信していかなければならない。
- 普段は気づけていない大田市の魅力を再発見できた会でした。市内に住んでいる人と、市外から U・I ターンで来られた方では、大田市に対する見方が違うということが分かった。人と人との距離が良い意味で近いということは、都会では味わえない、都会で生活して疲れたときは”ぜひ大田市へ”と言いたい魅力であった。
- 大田には“ほどよい田舎”感があるので、移住という面では選ばれる市だと感じました。治安の良さ、のびのび子育て、挨拶文化・・・移住した者からはビックリすることばかりだったので!!もっと発信することが大切だと感じました。
- 出生数に対して目がいきがちですが、そこに至るまでの経済的支援やインフラ、また地域のつながりを強くしていく必要を感じました。
- 他の参加者の意見にあった「小・中・高校生用のワークショップ」の開催はとても良いことだと思います。純粋な思考だけでなく、市の一員としての自覚を促すことに繋がると感じました。

など

